消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】

１．事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
２．体験した事例の名称	災害出動前、消防車を発進させる時のヒヤリハット事例。
３．体験した事例の中心的要素	出動指令の後、各隊員が装備の着装を行っている最中、後部座席に乗車する隊員がまだ着席せずしかもドアがまだ開いている状態であるにもかかわらず、消防車を発進させたもの。 すぐに機関員が気付き車を停止させたことで事なきを得た。
４．体験した事例の原因・理由	機関員の周囲の安全確認不足及び分隊長の指揮統制不足。

【体験した事例の直接的原因について】

１．体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。

【体験した事例について】

１．発生日時	平成　11 年 9 月 0 日　　午前　10 時頃
２．発生した当時の天候	晴
３．発生した活動現場	屋外：車庫内
４．体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
５．事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
６．どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、転倒、飛来・落下ぶつにぶつかる
７．事例体験時の活動	火災、出動準備　[　]
８．（７の活動中）どのような作業中に発生したか	その他：車庫からの発進
９．同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

１０．事例体験者の属性（回答者は当事者Ａ）

○当事者Ａ	年齢[31]歳、 勤続年数[7]年、 現場経験年数[7] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [隊員]
○当事者Ｂ	年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、 同様の活動 [ ]、 任務 [ ]
○当事者Ｃ	年齢[ ]歳、 勤続年数[ ]年、 現場経験年数[ ]年、 階級[ ]、 同様の活動 [ ]、 任務 [ ]
その他 （当事者が４人以上の場合）	

１１．事例発生の経過。

	誰（何）が	なにをした	その他・備考など
経過１	機関員	乗車員全員の乗車を確認せずに発進した	
経過２			
経過３			
経過４			
経過５			
経過６			
経過７			
経過８			
経過９			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合　　：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

ａ．あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

ｂ．注意力が欠如していた

・１つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

ｃ．経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

ｄ．心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

〇装備・資機材について

ｅ．資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

〇活動環境について

ｆ．障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

ｇ．行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

ｈ．足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

〇指揮・管理について

ｉ．適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

ｋ．関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

〇その他

ｌ．その他の理由があった。

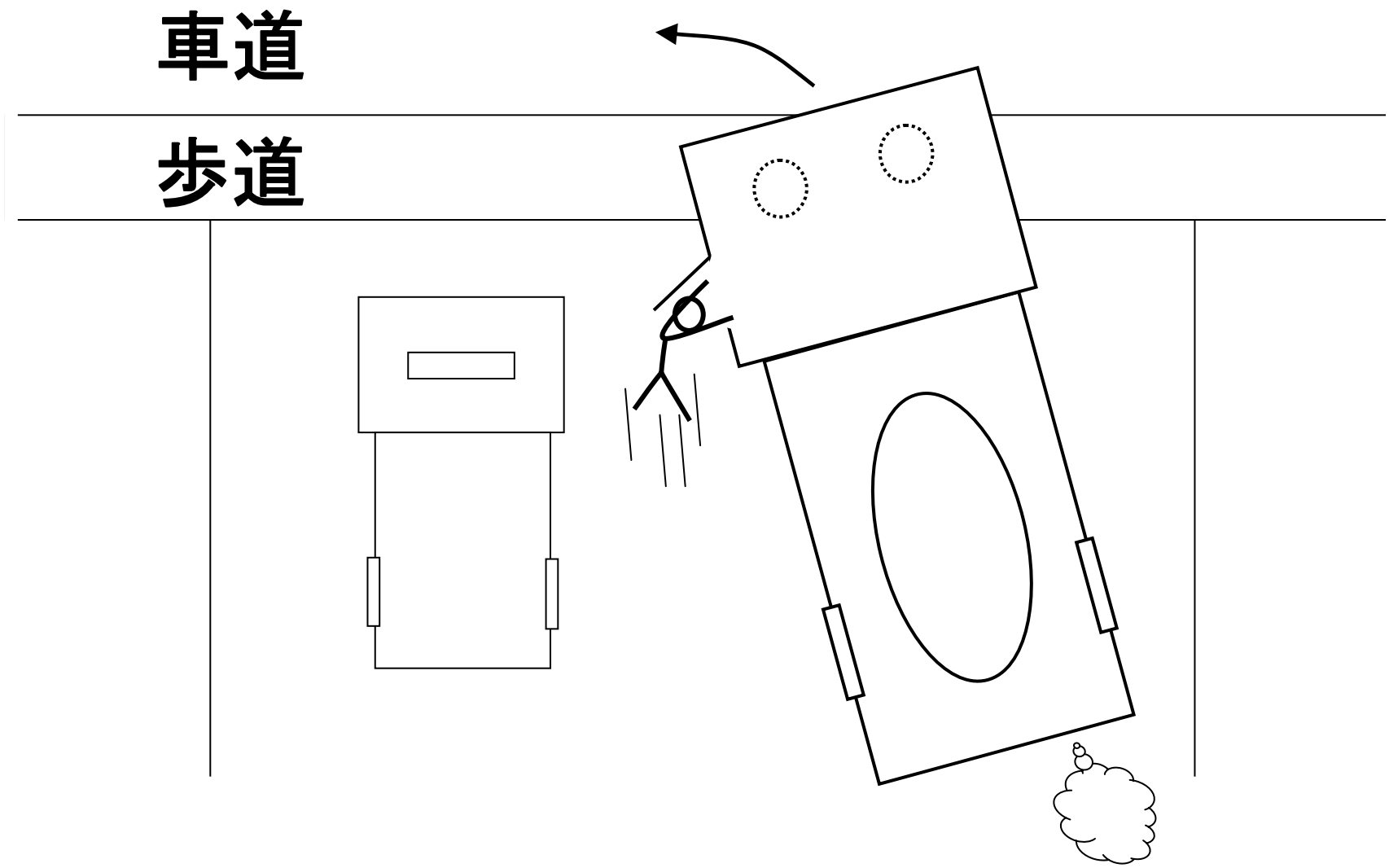
【事故発生後の取り組みについて】

〇注意力欠如、焦り等の対策について

〇装備・資機材の対策について

〇活動環境の対策について

〇指揮・情報伝達の対策について


車道
歩道